

新金沢交通戦略の策定にあたって

戦後、特に高度成長期において、豊かさの象徴といえば、冷蔵庫・クーラーなどの電化製品、洋食やファーストフードをはじめとする食文化など、豊富な資源やエネルギーを活用して、個々人にとって便利なものを大量に生産し大量に消費する。そんな社会が憧れだったと思います。交通の分野においても同様で、整然と整備された道路を通して、マイカーで会社や買い物など、行きたいところにいつでもいける。そんなことが求められてきたと思います。

しかし、高度成長期を経て成熟した21世紀のわが国においては、一方で、人口減少・高齢社会の到来、環境問題、中心市街地の衰退など諸課題を抱えています。これに対応するためには、マイカーに依存する拡散したまちより、むしろ、増加する高齢者の外出機会の確保、二酸化炭素排出量の削減、まちなかの賑わい創出などのために、公共交通を中心とした、コンパクトなまちづくりを目指す必要があると考えます。特に、長く戦禍を免れ、歴史・伝統が息づく金沢では、このようなまちづくりが相応しく、今後も引き続き、その営みを続けていく必要があると考えています。

折りしも本市では、昨年4月に、3環状道路のうちの外環状の山側部分が全線開通し、まちなかを通過する交通量が減少するなど、道路等の基盤整備により、歩行者と公共交通を優先するまちづくりを進めることが可能な環境も整いつつあります。

今回策定する「新金沢交通戦略」は、同時に制定する「公共交通の利用の促進に関する条例」とあわせて、このような目標を実現するための具体的な行動計画です。北陸新幹線の金沢開業も見据え、平成27年度(2015年度)を目標年次とし、市内を交通環境の違いに応じて4つのゾーンに区分して、各ゾーンやゾーン間の連携のために実施すべき具体的な施策を掲げています。

この取り組みは、ひとつの都市の小さな取り組みですが、「地域の便利な公共交通は地域が一体となって自ら支える」などといった点で、わが国の交通政策に新たな一步を記すものであると考えます。この実現には、市民の皆様や事業を営む方々と行政が協働することが不可欠です。皆様方のご理解とご協力をお願いいたします。



平成19年3月

金沢市長

山出保